



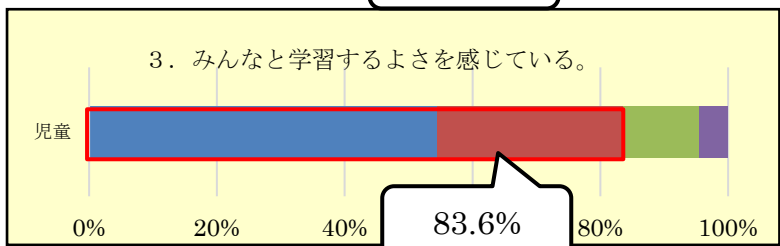
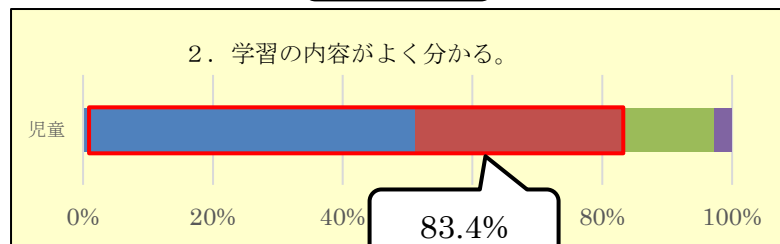
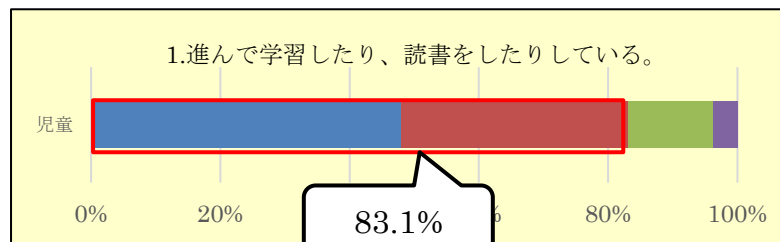
朱一だより

令和7年11月
特別号
京都市立朱雀第一小学校
Tel 841-3201
校長 宮下 佐知子

【令和7年度朱一つながりアンケート結果報告】

朱一つながりアンケートにご協力いただきありがとうございました。
結果について、ご報告いたします。

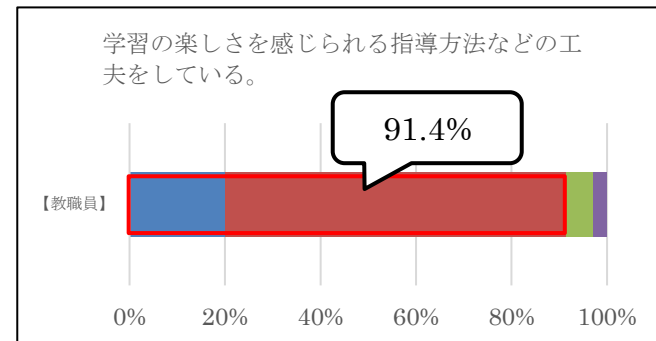
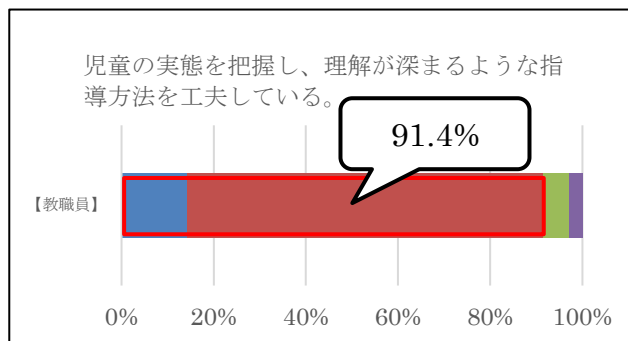
進んで学習する子【良い点】



児童・保護者・教職員・地域等とのつながりを大切にした朱一教育を通して、「よりよく生きるために、自ら考え、行動する子」の育成を目指すことを学校教育目標としています。この目標を達成するために、「進んで学習する子」「思いやりのある子」「心も体も元気な子」の3つの目指す子ども像を設定しています。アンケートではこの3つの観点をもとに、児童は自分自身について、保護者はお子さんの様子やご家庭での取組について、教職員は学校での児童の様子や学校での取組について質問項目を作成しています。

回答の仕方は、「よくあてはまる」「あてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4項目で答えてもらっていますが、保護者の回答にのみ「わからない」という項目を増やしています。

■よくあてはまる ■あてはまる ■あまりあてはまらない
■あてはまらない ■わからない



児童の回答に注目してみると、「進んで学習をしたり、読書をしたりしている」では83.1%、「学習内容がよく分かる」では83.4%、「みんなと学習する良さを感じている」では83.6%という結果から、3つの質問項目とも80%以上の児童が肯定的な回答をしています。

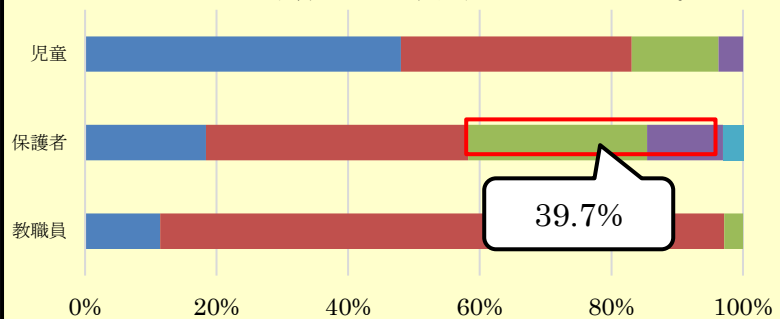
教職員の質問項目には、「学習の楽しさを感じられる指導方法などの工夫をしている」「児童の実態を把握し、理解が深まるような指導方法を工夫している」というものがありますが、どちらの回答も、91.4%と肯定的に回答しています。

この結果から教職員の創意工夫を生かした授業が多くの児童に届いているのではないかと考えられます。また、本校の研究で大切にしている「教科書を教える」「指導書そのままの授業」ではない、ワクワクする授業づくりや教材づくりの意識が広がってきていると考えます。

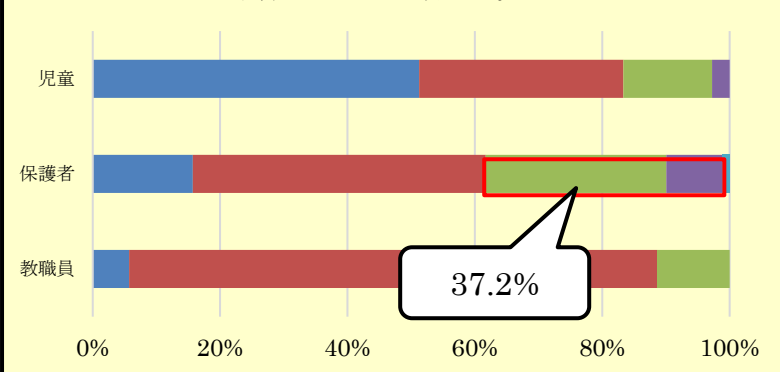


進んで学習する子【改善点】

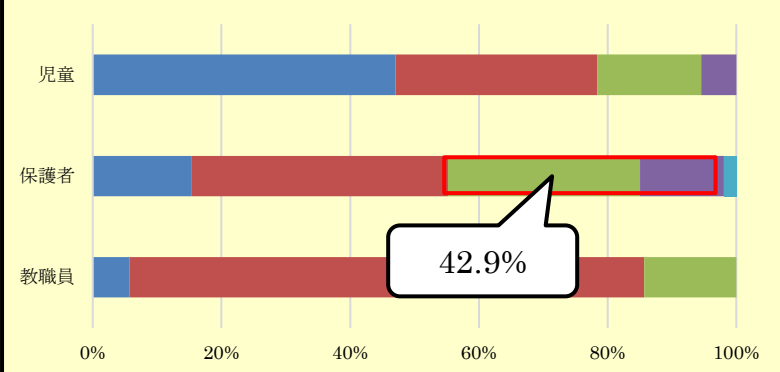
1. 進んで学習をしたり、読書をしたりしている。



2. 学習の内容がよく分かる。



4. 問題を解決できるように粘り強く学習している。

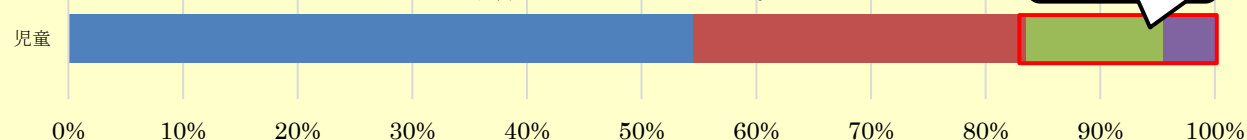


保護者が児童の様子を回答した質問項目に注目してみると、「進んで学習をしたり、読書をしたりしている」で39.7%、「学習の内容がよくわかる」では37.2%、「問題を解決できるように粘り強く学習している」では42.9%が否定的な回答となり、児童の回答よりも多いことが分かります。

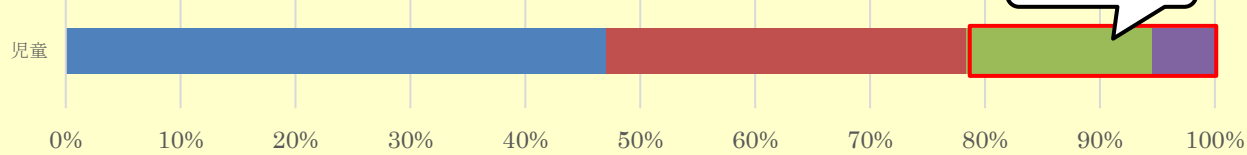
保護者が子どもたちの学習について考える場面は宿題だと考えます。子どもたちが宿題に自ら取り組もうとしているのか、すらすら解けているのか、最後まで自分の力でやり切っているのかというところを見て回答をされていると思われます。

教職員としては、宿題も主体的に取り組めるような内容にしていけることが課題と考えます。

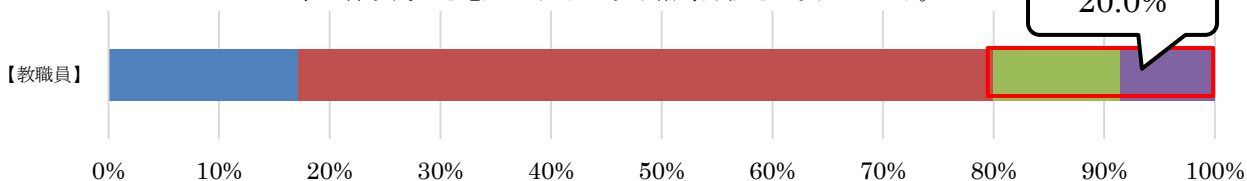
3. みんなと学習するよさを感じている。



4. 問題を解決できるように粘り強く学習している。



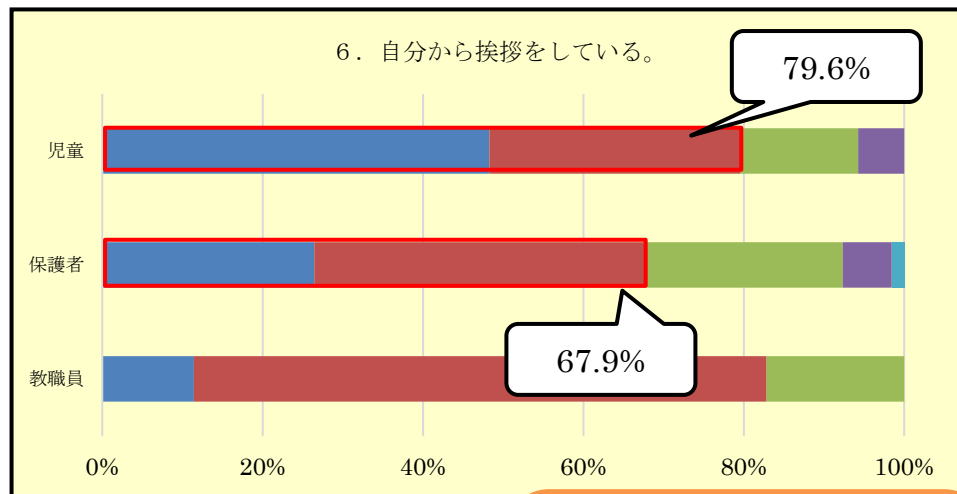
学び合う良さを感じられるような指導方法を工夫している。



「みんなと学習するよさを感じている」という項目では16.4%、「問題を解決できるように粘り強く学習している」という項目に対し、21.7%の児童が否定的に回答しています。

「良い点」として教職員の指導の工夫を成果としてあげましたが、この「学び合う良さを感じられるような指導方法を工夫している」の結果では少し様子が異なり、20%が「あてはまらない」と回答しています。

授業の導入で感じたワクワクをさらに新しいワクワクにつなげていくことを意識した指導方法を工夫することや、「学び合いの良さ」を感じられる指導方法の工夫をしていくことが今後の課題と考えます。



挨拶に関して、児童と保護者の肯定的な回答に大きな差が見られました。校内での様子を見てみると、「挨拶されたらする」「知っている人なら自分からする」児童が多くいます。保護者の肯定的回答が児童と比べて低いのは、この挨拶をする「相手」が「子どもが知っている人」だけではなく、「いろいろな人」に挨拶をしているかという点で回答していただいているのではないかと考えます。

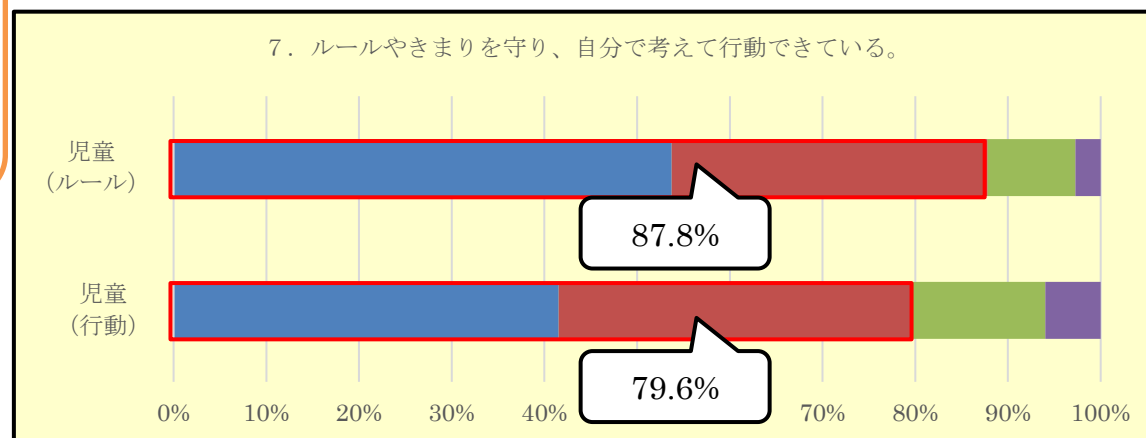
地域に出た時には、安全の観点から「相手」を顔見知りの方への挨拶でいいと考えるご家庭も多いかと思います。校内という安全な空間の中では、誰にでも挨拶できるスキルを身に付けていくこともできるのではないのでしょうか。

自分からの挨拶を充実していくために児童会が「相手の名前を言って挨拶をする」という取組を推し進めています。相手意識を大切にするという点で、分析結果の改善にもつながるのではないかと考えます。

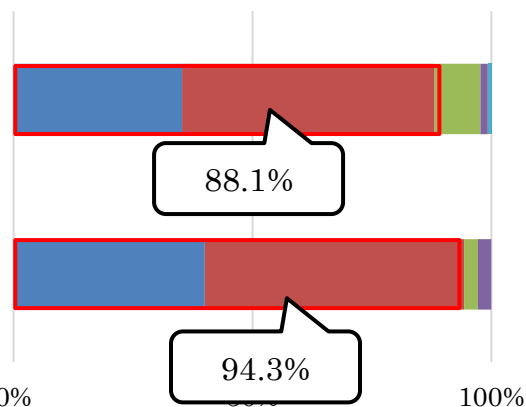
思いやりのある子 【改善点】

児童の肯定的な回答が7～8割になるという結果でしたので、否定的に回答した児童に焦点を当てて、どんな改善ができるかを考えました。

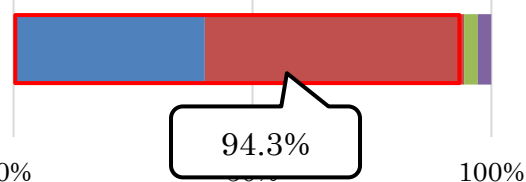
児童は、おおむねルールやきまりを守っていると考えられます。保護者や教職員はルールやきまりを守ることにについては働きかけているものの、自分で行動することについては働きかけが弱いということが結果から見られます。ルールを守ることと自分で考えて行動できることは両輪で考えて働きかけることが必要であると分かりました。



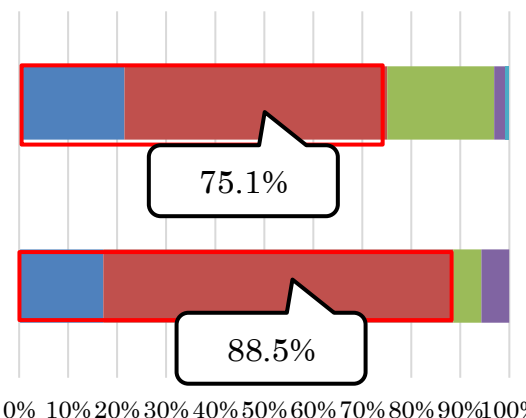
【保護者】お子さんが、ルールやきまりを守ることについて働きかけている。



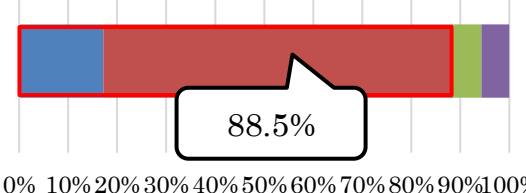
【教職員】ルールやきまりを守る意味を指導したり、守る大切さについて指導したりしている。



【保護者】お子さんが自分で考えて行動するように働きかけている。

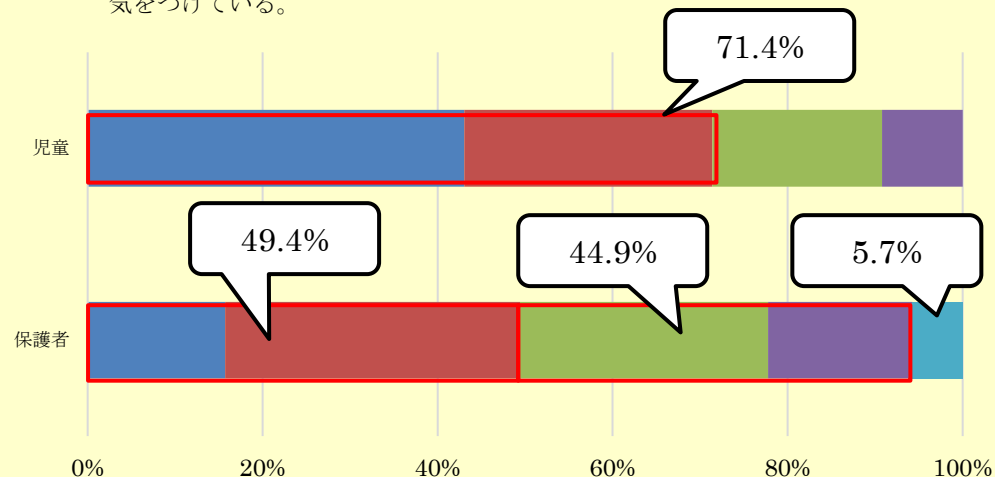


【教職員】自分で考えて行動できるように計画的に指導をしている。



心も体も元気な子【改善点】

14.テレビやスマートフォン、ゲームなどを使う時間が長くないように気をつけている。



テレビやスマートフォン、ゲームなど ICT に関する項目です。

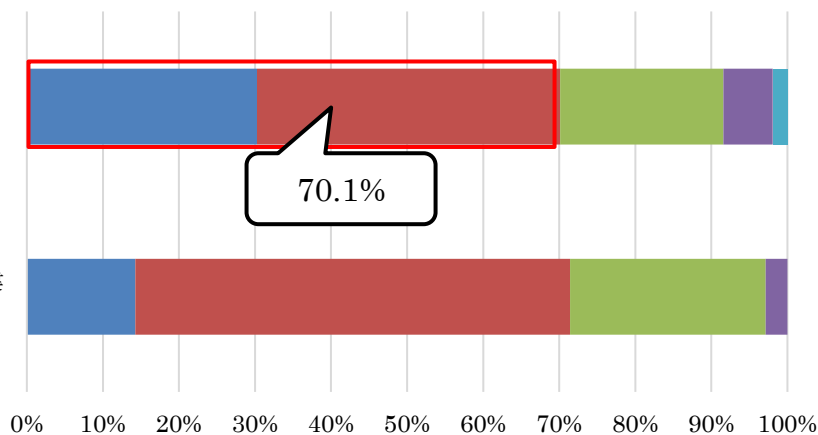
児童の7割は使用時間に気を付けていると回答していますが、保護者が児童の様子を評価した肯定的回答が約5割、否定的回答も約5割という結果になり、保護者の7割は使用時間を決めて守るように働きかけているけれども、守りきらすことが難しいとも言えることが分かりました。

そして、保護者のアンケートには、「わからない」の回答欄がありますが、この項目の他では1%～3%にとどまっていた「わからない」の回答が、この項目だけ5.7%となりました。

2学期からiPadが導入され、iPad等のICT機器を使いこなせるようになることが、これからの社会に必要なスキルにもなってくるかと思えます。学校では、学年に応じた使い方、使用頻度なども考慮しながら学習に使用しています。ご家庭でも、健康面への影響などを考え、ルールを作られていることと思いますが、それが守れるような方法を学校からもお伝えすることができればと考えています。

【保護者】テレビやスマートフォンを使用する時間を決め、守るように働きかけている。

【教職員】テレビやスマートフォンなどを長い時間使用したときの健康被害について指導している。



<おわりに>

アンケートへのご協力、ありがとうございました。ここに載せられなかった他の項目の結果については、学校ホームページに掲載しています。

今回、皆様からいただいたご意見と集計結果を踏まえ、学校教育目標「よりよく生きるために、自ら考え、行動する子」の育成を目指して、さらに学校の取組の改善を行っていきたいと思います。今後も、ご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

